

【地域で支える認知症公開講座】を開催しました！！

- ◆開催日:平成29年10月1日(日) ◆場所:ハピネスふくちやま
- ◆参加者数:一般の方、医療、介護、福祉関係者など約270名
- ◆内容:今年は2部構成(第1部ドキュメンタリー映画上映、第2部認知症当事者を迎えたパネルディスカッション)として、開催しました。

第1部 ドキュメンタリー映画「徘徊～ママリン87歳の夏」を上映しました。

《映画についての感想》

- 認知症の方への対応の仕方を工夫されていることがわかり参考になった。介護の大変さも良く分かった。地域で認知症の方を支えている様子に温かさを感じた。福知山でも理解がより深まれば良いと思う。
- この映画は、親子ならではの人間関係の構築が根底にあるのでよかったです。他者や介護従事者はこうはいかないという難しさも感じる物語であった。
- 認知症の家族を介護することで生活は大きな変化がおきるが、それをゼロとして新しい生活を組み立てるといって介護し、そこに楽しみを見つけるという意見もあることを事前を知ることができた。本人と家族の会話も面白い部分が多かった。
- 認知症について理解したうえで対応がいかに大切わかりました。



第2部 パネルディスカッション(リレートーク) 『認知症の人とその家族を支えるために、地域住民が出来ること』

【若年性認知症の当事者と御家族様】



夫婦2人での活動について、
“認知症についてオープンに話せるように”、“あとから来る人たちのために・・・”と地元で卓球サークルを作った話、また現在の暮らしぶりの話。
『ひきこもっている本人(認知症当事者)も多い。一歩外に出れば、地域で暮らしていける』と当事者の杉野氏は話をされました。

【福知山在中の御家族様】

義母の介護に困る事はないが、介護がきっかけで夫婦げんかをした事もあった。
デイサービスを利用するようになって、他の人と話す機会となり、本人が明るく笑顔になった。

【福知山在中の御家族様(ビデオ出演)】

実母を介護していたが、ある日行方不明になった。地域の方で認知症サポーターの勉強をしている方に見つけてもらい、『大丈夫やで。なんともなかったで怒らんといてな』とその方に言われて救われた。

コーディネーター
西垣内科医院(認知症サポート医) 西垣先生

《パネルディスカッションについての感想》

- 若年性認知症の当事者の方、介護者の方からの生の声が聞けて良かった。
- 体を動かすこと、人と触れ合うことが大切(サロンなど)。公表するのは勇気のいることだが、周囲に知ってもらって助けてもらえることも増えると感じた。
- 認知症の方とその御家族が集まる場の重要さや地域に理解のある人がいる・見守り体制が少しでもあることの重要さがわかった。
- 若年性認知症になられた本人・家族の取り組み、活動、ご家族の思いを聞く事により、認知症について改めて感じさせられる事が多かった。
- 地域の理解が心の支えになることを改めて教えていただいた。

今回、若年性認知症の当事者である杉野氏と御家族様を迎え、認知症を発症してから現在の暮らしぶりの様子などの話をして頂きました。また、杉野氏の想いや福知山在中で介護をされている御家族の想いなど、生の声(話)を通して【認知症】がより身近に感じて頂けたと同時に、福知山でも当事者の方々がオープンに話せる地域づくりが必要だと感じました。